

平成31年4月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成31年4月23日(火)		
2 開会及び閉会	開会	14時00分	
	閉会	14時55分	
3 出席委員	教育長	菅野和良	
	委員	藤原佳代子	
	委員	石井希典	
	委員	妹尾直人	
	委員	片山美香	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	石井雅裕	教育次長	岡林敏隆
次長(教育総務部長兼務)	赤野政治	学校教育部長	奥橋健介
生涯学習部長	重松浩二郎	教育企画総務課長	小林芳由
教育企画総務課企画調整担当課長	高坂仁美	文化財課長	草原孝典
指導課教育支援担当課長	渡邊裕一	指導課課長補佐	西山径
地域子育て支援課課長補佐	黒瀬格	事務局 (教育企画総務課課長補佐)	澤谷好太郎
事務局 (教育企画総務課主事)	友次紗都美		
5 議題及び結果			
第9号議案	第2期岡山市教育振興基本計画平成31年度アクションプランの決定について		原案可決
第10号議案	岡山市文化財保護審議会への諮問について		原案可決
6 教育長等の報告 [平成31年3月9日(土)～平成31年4月12日(金)]			
3/25～3/30	岡山市子ども会ジュニアリーダー研修会	地域子育て支援課	
3/26～3/29	岡山市子ども会インリーダー研修会	地域子育て支援課	
3/27	岡山型一貫教育協議会	指導課	
3/31	岡山市ジュニアオーケストラ創立55周年プレコンサート (第21回スプリングコンサート)	地域子育て支援課	

<p>教育長 地域子育て支援課課長補佐</p>	<p>○ ジュニアリーダーやインリーダーの研修会について、説明をお願いします。</p> <p>○ 私もインリーダー研修を3年間担当させていただいたが、今回もほぼ定員の人数で、新6年生対象ということで研修をやらせていただいた。</p> <p>今までは岡山大学の児童文化部がボランティアとして毎年参加してくださり、活動補助員として子どもたちの指導に関わってもらっていた。そのため、後輩へ研修内容や下準備等を毎年引き継いでくださっていたのであるが、部員の負担があまりにも大き過ぎるということで、3年前に活動補助を辞退された。その後は引継ぎなどのバックアップが全くない状態で、研修のことを全く知らない学生を集め、研修会を運営することとなった。ボランティア学生を集めるために岡山大学やノートルダム清心女子大学、中国学園大学などを回っているのだが、ボランティアで子どもたちへの指導に関わりたいという志の高い学生たちが毎年、定員20人をオーバーするぐらい手伝ってくださっていて、研修を行うことができている。</p> <p>研修においては、子供たちは初めての先生、初めての仲間で、本当に緊張して表情も固いのだが、大学生の先生方がうまくグループの中に入ってくれ、すぐに子どもたちも打ち解けることができている。学生にとっても、宿泊を伴う研修ということで、日帰りの教育実習では見られない子どもたちの我が出てきたり、人間関係のトラブルなどへの対応が必要になってきたりする。毎年10グループ作り、1グループが大体6人前後で集団生活をしているのだが、その中で学生が子どもたちと話し合いを重ねて、一つ一つの課題、トラブル、人間関係を解消しながら協力して研修をやり遂げている。4日目のお別れ会では、子どもたちと先生たちが涙を流して別れを惜しむ光景が毎年見られる。4日間という短い期間ではあるが本音で語り合ったからこそ生まれる連帯感や、別れに対しての寂しさなど、子どもたちと学生、将来教師を目指す先生方の非常に中身の濃い4日間を目の当たりにさせられ、お世話している私も彼らから感動をいただいている。</p> <p>子供たちも新6年生として一生懸命頑張りたいという気持ちをいろんなところで、初めて会う友達の前で決意を新たに、4日間を終えることができていたと思う。</p> <p>ジュニアリーダー研修のほうは、私はかかわってはいないのだが、瀬戸内市のキャンプ場のほうへ5泊6日でキャンプ生活を行って、お風呂には入れないという少し過酷な環境ではあるのだが、それぞれジュニアリーダー、それから子ども会のメンバーの力を合わせて、誰ひとり脱落することなく6日間を過ごしたと聞いている。以上である。</p>
<p>教育長 石井委員</p>	<p>○ 何かご質問があるか。</p> <p>○ すごく思いのこもった研修会であるし、子どもたちが経験する場として3泊や5泊するという機会もあまりないと思うので、非常に価値の高いものだと思います。</p> <p>この参加者については、サポートいただく方の制限もあるので、たくさん参加するというのは難しいことだとは思っているのだが、どういうふうに決まってこの人数になっているか。</p>
<p>地域子育て支援課課長補佐</p>	<p>○ このインリーダー、ジュニアリーダーの研修については、ここ3年は希望者が全部抽選もなく入れるようになる。時期が3月末というところで、一般の子ども会ということであると、犬島の冒険キャンプは抽選が必要な状況にあるが、こちらのほうはこういう時期ということもあり、定員内でできているという状況である。</p>
<p>石井委員 地域子育て支援課課長補佐 藤原委員</p>	<p>○ この案内は小学生、中学生全員が知っているということか。</p> <p>○ 学校、子ども会を通して案内を配布させていただいている。</p> <p>○ 関連して、子ども会の所属でないと参加はできないのか。子ども会があるところやないところがあると思うのだが。</p>
<p>地域子育て支援課課長補佐</p>	<p>○ 子ども会に参加している、いないは関係なく募集をしている。集めるお金が保険の関係で違うが、それ以外は区別することはない。</p>

藤原委員	○ インリーダーもジュニアリーダーもそんなには違わないのか。海と山といういろいろな場所的には違うのかもしれないが。
地域子育て支援課課長補佐	○ インリーダー研修は、大学生が中心となつてのグループ活動になるが、ジュニアリーダー研修会は、いわゆる子ども会のジュニアリーダーの子供たちが班長になって、参加した子供たちと5泊6日をいろいろなイベント、レクリエーション等を通して生活をつくっていくというような内容になっている。そういう意味でプログラムの内容が違うが、ジュニアリーダー研修会のほうがより子供たちのリーダーの手によるリーダー研修会という形になっている。
藤原委員	○ ただ、子ども会という冠がついていたら、子ども会の所属メンバーでないと参加できないと思うのではないかと、こういうリーダー研修会がもっとたくさんあればいいと思う。時期や場所の制約もあるのかもしれないが、今、子供たちが縦の関係で動けることは、いわゆる何かのチームにでも入っていないと経験がないと思うので、ぜひたくさんの方が参加してくれたらいいと思うのだが、ネーミングのことだけでちょっと引いてしまうのかなと思ったが、それはいいのか。
地域子育て支援課課長補佐	○ 今、委員がおっしゃられたように、やはり「子ども会」と入っているので、参加できませんか、という問い合わせはすごく多かったので、昨年度からチラシに、子ども会に所属してない方でも参加できますという一文を入れており、それを入れたおかげかもしれないが、ここ最近ではジュニアもインリーダーも参加人数は多くなっていた。
藤原委員	○ その根本的に名前を変えるというのは、保険対応とかで難しいのか。子ども会という冠をつけないといけないのか、変えてもよいのか。
地域子育て支援課課長補佐	○ もともと地域の子ども会のリーダーを育てて、地域の子供は地域で育てる、地域のリーダーは地域で育てるというようなことから、子ども会のリーダーを育てていこうというのが発端である。特にジュニアリーダー研修会のほうは、子ども会のジュニアリーダーの中学生、高校生が主になっている。さらにジュニアリーダーを卒業したシニアリーダーの若い世代がそれをまた指導するというような形で、代替的に子ども会のほうがバックアップをしてもらっているという、そういう支援から始まったということがあるかと思うので、これを全く取っ払ってしまうというのは難しいと思う。
藤原委員	○ 趣旨はよくわかる。だから、こういう人も大丈夫ですというのをしっかりと啓発していったら、今は子ども会に所属してる人の割合が随分下がっていると思うので、そういう機会があるというのは知らせていったらよいと思った。
教育長	○ ほかにあるか。
藤原委員	○ 3番目の岡山型一貫教育のことで、これは毎年やっており、だんだんと課題も変わってきていると思うが、今年度、何を大事にするというふうに言われたのか。
指導課課長補佐	○ 例年、この岡山型一貫教育の協議会は4月に行っていた。ただ、学校の事情で、協議会を開いても、家庭訪問があつたり、学校の行事があつて、なかなか研究主任の先生が参加できなくて、教頭先生や園長先生が参加されるというケースが多かったものであるから、今回、年度末に開催するという形に変えさせていただいた。 研究主任の先生方はほとんど来られた。岡山型一貫教育の取組の中心になる、子どもが輝く学びづくりプロジェクト、我々は学プロと呼んでいるが、この学プロの手續の仕方であるとか、中学校区で研究課題について課題を共有するであるとか、そういった会を持っている。岡山型一貫教育も10年目を迎えたので、中学校区でという形は浸透してきているのだが、課題を共有するという面で、年度初めの忙しい時期にするのではなくて、年度末に次年度に向けて会を持つということで、年度初めに少し時間にゆとりができたかなと思っている。
藤原委員	○ 今、お聞きしたのは、割と手続的なことがメインになるのか。今の共通課題と言われたが、そういうことも話し合う機会もあるし、どういうふうに次の年度の学プロを取り組むかという手続のようなことも、両方あるのか。

指導課課長補佐	○ 最初に岡山型一貫教育の話をこちらからさせていただいて、4年サイクルで回しているの、1、2年次の中学校区と、それから3年次の代表授業をする学校になるの、3年次は独立して集まっていたので、今回は手続の説明が中心になる。それから、4年次は、前年度代表授業をしているので、今度は全員授業をする。その前年度の代表授業を受けて、もう一度修正がないかどうかというのを中学校区で確認し合って、グループ討議に時間を多目にとってやっている。
藤原委員	○ そうすると、ソフト面で例えば全国的に行われている小中一貫型とか、新しい教育の方向性とか、そういう情報を出してあげるような機会ではないということか。
指導課課長補佐	○ 時間的にそれは難しいと思っている。来月、ゴールデン・ウィーク明けにそういった会もある。分割して行うつもりである。

7 議事の概要

教育長	○ ただいまから4月岡山市教育委員会定例会を開会する。平成最後の教育委員会である。 本日の傍聴希望者はいない。 日程第1、会期についてであるが、本日1日限りとしてよろしいか。
全委員 教育長	○ 〈承認〉 ○ 日程第2、こちらに3月の臨時会及び定例会の議事録があるので、ご覧いただき、問題がなければご署名をお願いします。 それでは、事業報告を見ていただき、何かご質問があるか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)
教育長	○ それでは、議事に入る前に会議の公開、非公開についてお諮りする。 日程第4の報告第25号から第27号は、教育事務に関する議会の議案等についての市長への意見の申し出に関する事項として会議規則第7条第1項第3号に該当するため、また、報告第28号は、任免、賞罰等の職員の身分取り扱い、その他人事に関する事項として、会議規則第7条第1項第1号に該当するため、非公開としたいと思う。委員の皆さん、いかがか。
全委員 教育長	○ 〈承認〉 ○ 日程第4の報告第25号から第28号は非公開とする。 それでは、日程第5、第9号議案、教育企画総務課から説明をお願いします。
企画調整担当課長	○ 第2期岡山市教育振興基本計画の平成31年度アクションプランについて説明させていただく。 資料1をご覧いただきたい。 先週、お届けした資料から末尾の指標一覧の2ページ分にわたり、今日、再度修正版をお渡しさせていただいている。そちらのほうをご覧いただきたい。 最初から順を追って説明をさせていただくが、4月当初に協議会の際にいただいたご意見の中からこの平成31年度アクションプランの変更点について説明をさせていただく。 まず、6ページ、7ページの主な事業、クローズアップのところをご覧いただきたい。 委員から、来年度の主な事業、このクローズアップの中でインパクトとして特別支援という印象がもう少し強いものが欲しいというご意見をいただいた。上の3つの柱は、左にあるように新学習指導要領の円滑な実施、学力の向上、そして問題行動等の防止及び解決という筋で書いているので、当然、どの地点にも特別支援の制度は重要になってくるのであるが、特にアピールできるものとしては、その下の喫緊の課題の解決に向けての環境整備の中の6ページの下側のところである。学校教育部門の教職員の資質、能力の向上のところに、若手教職員育成事業等という枠を設けておるが、その下のところに、特別支援学級担当教員研修講座等の研修事業の推進、その文言を付け加えた。 全ての分野において教員が特別支援教育の視点を持って、学力の向上に関して

も、問題行動等の防止及び解決に関しても、そういった教員をまず育てることに力を入れていくアピールとしてここに書かせていただいている。これが変更点の1点目である。

2点目は、岡山キャリアスタートウイーク事業、このジャンルが果たして施策2-1、思いやりの心や規範意識、向上心の育成のところに該当するのか、他のところなのかというご質問をいただいておりますが、この施策の概要としては、人権尊重の精神に根差した思いやりの心や規範意識、向上心を養うために豊かで多様な体験活動の充実を図る、この豊かで多様な体験活動の充実という部分で、やはり該当する施策はここであろうということにまとめ、以前と同じ場所にこの岡山キャリアスタートウイーク事業を置くことにしている。

3点目は、南部適応指導教室整備事業、これについて、アピール度としてはハード面に加えて何をこの事業が目指しているものなのか、この教室を整備することで何を狙っているのかというところをもう少し分かりやすくというご意見をいただいている。

この欄の事業内容のところをご覧いただきたい。教育相談や適応指導、不登校及びその傾向にある子どもの自立に向けた指導・支援を行う、とここに書いているが、これをもってその内容面での説明とさせていただきたいと考えている。

前回いただいたご意見等を踏まえまして、今回、修正、または位置づけをはっきりさせたところは以上である。

また、新たに今日修正版を付けているように、ここで初めて修正のお示しをさせていただいている部分が2か所ある。

まず、左のページである。上から3項目の欄であるが、「家で学校の授業の復習をしている」と答えた子どもの割合。昨年の全国学力・学習状況調査の質問紙調査でこの質問の内容が変更になったため、質問紙もそれに対応して変えると前回提案させていただいたが、今年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、この項目が再度変わっていた。来年度もこの同じ質問が続くかどうか分からないため、その都度この指標一覧の概要を変えることをやめて、当初の「家で学校の授業の復習をしている」と答えた子どもの割合、これを再度指標一覧の中に戻すこととしたいと考えている。もちろん、そうすると、平成30年の実績値は空欄になる。しかし、平成31年度、平成32年度に関しましては、教育委員会が毎年行っている教育に関する総合調査を活用して、この質問項目を設けて数値を上げていこうと考えている。これが変更点である。

同じように考えている変更点がもう一つある。右側のページの下から4つ目のところである。前は5つ目であったが、変更版では4つ目になっている。

「平日に1日当たり2時間以上テレビゲームをしている」と答えた子どもの割合、これに関しまして、この4月の全国学力・学習状況調査の質問紙から変わっていたので、先ほどの説明と同じように、前回の指標に戻すこととしたいと考えている。これも教育に関する総合調査を活用して数値を上げていきたいと考えている。

主な変更点、それから位置づけを明確にした点、それから指標についての修正、変更については以上である。ご審議のほど、よろしく願います。

- それでは、このアクションプランについて、何かご質問やご意見はないか。
- 13ページのキャリアスタート、もとのチャレンジワークのところであるが、それは豊かな多様な経験を目指して思いやりにつながるのかといたら、私自身はこれは自己実現のための練習と言ったらおかしいが、経験ではないかと思っているので、お聞きしたい。

捉え方はいろいろあると思うが、多様な経験をするために職場体験をしているのか、将来の自分の自己実現の一助になるようにしているのかというのは、これは指導課でしっかりと検討が必要かと思う。確かに思いやりにもつながることはあるが、もともとの目的が違うのかと思う。書きぶりとしても、場所はここで変わらないとしても、この事業の内容の出だしに、「何とかのために」というの

教育長  
藤原委員

	<p>はいるのではないかと思う。</p> <p>例えば18ページの不登校などの、不登校やいじめ、集団不適應等の未然防止や早期発見のためにというのが付いている。それから、栄養についても、食への興味関心を喚起し、食生活や生活習慣、健康意識を向上させるために何々するとある。だから、事務事業の前に、「何かのために」というのを付けたほうがより色合いがはっきりするのではないかと思う。そのときに、豊かで多様な経験をさせるために、ともし付けたとしたら、何か違和感がある気がする。もともとのチャレンジワークの成立ちのところに立ち返って、岡山市ではキャリアスタートウイークということをしているのだと思うが、本当の目的が何だったのか、ということをもう一回考えて、そこに「何かのために」という文言を一文入れてほしいという気がする。特に片仮名語の事務事業なので、これが何かというのは必要であると思う。</p>
<p>企画調整担当課長 教育長 片山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今ご指摘いただいた点に関しまして、文言レベルで担当課と検討をして修正案を再度提出させていただく。</li> <li>○ ほかに。</li> <li>○ 施策6-1、家庭の教育力向上への支援というところの一番下に、子育て支援「のびのび親子広場」事業を上げているが、平成31年の市の目標値が他の目標値に比べて随分、平成29年の実績値以降、どこも割と低めに設定してあるというか、実績値が低いから目標値が低いということでもあると思うが、ここが他の事業に比べて伸びていかない理由というのが、今年度も恐らく小幅な伸びが目標値になされていると思うけれども、どのような理由によるものかということをお聞かせいただきたい。</li> </ul>
<p>企画調整担当課長 片山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 50から58の伸びについてであるか。</li> <li>○ あまり伸び率が低いということと、また今年度末の目標値、だから令和元年の目標値も余り伸びるような方向では設定されていないと思う。</li> </ul>
<p>企画調整担当課長 片山委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 65が最終数値でよいのかと。</li> <li>○ よいのかというよりも、8%ぐらいの伸びで、同じような伸びで令和元年の目標値を決められているかと思うのであるが、すごく大事な事業であると私自身は思うけれども、それがなかなか実績値としても他の事業と比較すると余り達成値とか実績値が高くないし、今後も余り増えていかないような、小幅に増加する設定値かと思うけれども、その理由というのをどのように分析されているのか、その大事な園の、回答する園の割合が増えない理由というのがどういうところにあるのかというのを聞きたい。</li> </ul>
<p>企画調整担当課長 教育長 藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 岡山っ子育て局に再度意見を聞きましてお答えをご用意させていただく。</li> <li>○ そのほかに何かあるか。</li> <li>○ 同じ33ページの生涯学習課のところであるが、地域協働学校が随分岡山市は進んでいると思う。そこの充実していると感じている学校園は90%以上である。一方では、そのコーディネーター事業、その実施学校園の割合が、目標も来年30とか、そのあたりであるが、これは制度としてどうなのか。コーディネーターが見つからないというのがあるのか。国は多分これを進めようとしていると思うが、岡山の特性として地域協働学校の仕組みができていたから、こういうものが不要なのか。それとも人材がないのか。</li> </ul>
<p>教育次長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業をやった経験から申し上げると、コーディネーターには謝金がつく。ところが、他の地域の方と同じようなことをやっていて、自分だけ謝金をもらうわけにいかないというふうにお考えを持った地域のリーダーの方がだんだん出てきている。だから、コーディネーターとして学校がお願いしにくいというのが実態としてはあるので、そこをどういうふう考えていくのかということである。個人にお金を落とすのではなくて、また違うお金の落とし方というふうなものも国のほうが広げて考えていただければ、より有効活用ができるのではないかと私は思っている。</li> </ul>
<p>藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育次長が言われるとおりで、岡山市の場合は歴史が結構あるので、定着して</li> </ul>

<p>企画調整担当課長</p>	<p>いるから、余計に国が思っているようなところで謝金を出すというのがなじまないのではないかと思う。ならば、ここに目標値を掲げる、指標に掲げるようなことをすると、いつまでたっても多分進まないと思う。だから、岡山らしさというか、岡山の特色で行こうと思うのであれば、この指標がなくて、コーディネーターの配置事業はほどほどにといいところでもいいのかなと思うが、こういうふうには謝金を出して、もっと広げるということを進めていこうというのも、もちろんよいと思う。</p>
<p>教育長 妹尾委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 藤原委員からいただいたご意見については、担当課ともう一度すり合わせをして、この数値につきましても、再度説明できるようにする。</li> <li>○ そのほかないか。</li> <li>○ 要するに働き方改革の関係については、独立した事業として上げられているわけではなくて、多分、部活の指導員の配置事業だとか、その事業が相まってだろうとは思いますが、そういう独立して事業としてやっていくような計画は、例えば来年度にはあるのか。かなり本気でやっていかないといけないと思っている。</li> </ul>
<p>企画調整担当課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現時点で、今、妹尾委員がおっしゃった働き方改革についての事業の枠組みでのまとまりは考えていない。ただ、その冊子では6ページ、7ページにあるように、クローズアップのところでは施策をどのように見せるか、どのようなまとまりで見せるかというところでは、働き方改革が話題性からしても、まとめることができる部分かというふうには考えている。 来年度のクローズアップに生かすことになろうかと思うが、ご意見いただければと思う。</li> </ul>
<p>石井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アクションプランをいつまでに作成するというようになっていて、その後、誰にどういうふうに説明する対象を改めてお伺いしたいと思う。</li> </ul>
<p>企画調整担当課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ このスケジュールとしては、この教育委員会の中で決定をいただき、その後、一般に公開という形にする。具体的には、まず議会、今までの名称で言うと市民文教委員会で報告をさせていただく。ここでは審議という形ではないが、ご意見は頂戴することになっている。一般への公開の方法としては、ホームページへのアップ、それから学校にはこれを冊子レベルやデータで配布するという形でさせてもらう。</li> </ul>
<p>石井委員 企画調整担当課長 石井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的には何月ぐらいになるのか。</li> <li>○ 公開は5月、議会への報告は6月になると思う。</li> <li>○ 準備されてやっていることではあるが、平成31年度、どんどん進んでいくので、できるだけ早く皆さんに周知させていただきたいと思ったが、保護者の方に直接配るようなことは特にはないとの理解でよいのか。</li> </ul>
<p>企画調整担当課長 石井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者向けではない。</li> <li>○ クローズアップの中で、今年度については、新学習指導要領の円滑な実施というのが入ってきて、これが一番上に掲げられているので、主に学校の校長先生や先生方に、これが今年一番大きな動きということで見ていただきたいという意図があるのかなというふうに理解しているのであるが、そういう優先順位を踏まえてこの順番で並べられているという理解でよいのか。</li> </ul>
<p>企画調整担当課長 石井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ そのとおりである。</li> <li>○ 誰が見るかによって違うと思うけれども、子ども目線であったり、保護者目線であったりする場合は、また優先順位が変わっていったりすることもあるのかなというふうにも思った。ただ、今回の目的には合致しているのかなというふうに感じた。</li> </ul>
<p>藤原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 関連して、概要版はできるのではないかと。保護者向けとかネット画面に載せるとかして保護者が見るといことはあるのだろうか。</li> </ul>
<p>企画調整担当課長 藤原委員 企画調整担当課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ はい、もちろん見ることはできる。</li> <li>○ リーフレットでその概要版を配るといことはしないのか。</li> <li>○ 今のところは考えていない。</li> </ul>

藤原委員	<p>○ 概要版があったらよいと思っている。今言われたクローズアップのところであるとか、全体の岡山市の目指す方向とか。</p> <p>それから、このアクションプランは、年々バージョンアップしており、読みやすくなっていると思う。特に表紙も以前は風景だったものが、先生や新採用の先生の顔になって、随分身近に感じられるようになったと思う。もう一つ進んだら、著作権とか肖像権とか色々な問題があるが、子どもたちの写真を真正面からでなければ、活動の様子というの撮れると思うので、そういうものを随所に入れ込むほうが身近に感じると思う。</p> <p>それから、今年度のアクションプランは平成33年度までの間の基本計画に向けてのアクションプランであるから、そんなに大きく変えることは難しいかもしれないが、一つ足りないと思ったページは、例えば1ページ目はこれでよいと思う。大きな岡山市の目指す教育の着地点がここに載っている。2ページ目はそれが模式図になって事業が載っている。3ページ目は、これは内容ではなくて、アクションプランの仕組みだと思う。それから、その次がすぐに具体的な政策や施策になっているが、この間に1ページ要るのではないかと思った。やはり岡山市が目指している方向の、具体的な施策じゃなくて、その上にあるもので、例えば今学習指導要領も変わって、学力観とか授業観が変わっているというふうなことを示さないといけないと思う。インプットの学力ではなくて、アウトプットの学力が必要である。だから、授業観にしても、教え込むような授業ではなくて、今はアクティブ・ラーニングを文科省も積極的に使っていないようだが、そういう協働型の授業が必要とか、活用型が必要とか、今の時代に求められているようなことがもう1ページ説明があつてから、具体的施策が要るのではないかと全体を通して感じた。</p> <p>今年度それを修正するというにはならないかもしれないが、来年度以降に、先生が読むにしても、保護者が読むにしても、着地は自立に向かうというのは分かるが、岡山市がどういう教育をしようとしているのか、という理念について書き込みが必要だと思った。</p>
企画調整担当課長	○ 今のご意見を早速この紙面に加わるように来年度に向けて検討させていただく。
藤原委員	○ 今年は小学校、来年は中学校の教科書の改訂があるし、内容も絡んでくると思うので、必要かと思った。
石井委員	○ これも今年度についてではないが、最後にお示しいただいている新教育振興基本計画における評価指標一覧を見ると、おおむね改善傾向にあるが、放っておくと悪化するのを何とか抑えているという形で推移しているように見えている。目標値と大幅に乖離があつて、かつ悪化しているものというのと、例えば、一番左のページの一番下の「朝食を毎日食べている」と答えた子どもの割合は、若干悪化傾向にあつて、目標値と大幅に乖離しているものになっているので、これが今年度の施策の中には直接リンクしていないが、教育振興基本計画の中では問われてきているので、これに対して何かしらの取組みを少なくともしておく必要があると理解しているが、今年度のこの紙上の話ではないけれども、お伺いできたらと思う。
企画調整担当課長	○ この第2期の教育振興基本計画の5年計画の2年を終えて3年に入ることによって、今、石井委員がおっしゃったこの数値の推移から目標まであと1年、2年というところであるので、今おっしゃったとおり、数値、目標値と数値の推移をもとに事業を考えて見直し、新しいものを、要らないものに変えて新しいものを付け加えていくという、そういったところを来年度はまさに強化する必要があると感じている。 <p>この計画の終盤であるので、まさに今言っていたことが重要だと思っている。来年度、その点を改善していきたいと思う。</p>
教育長	○ それでは9号議案について、若干文言を見直すところもあるが、その大体原案どおり可決してよろしいか。

全委員 教育長	○ 〈承認〉
文化財課長	○ 原案どおり可決する。 続いて、第10号議案、文化財課から説明をお願いします。
	○ 岡山市文化財保護審議会への諮問についてである。 岡山市指定文化財を解除するにあたり、別紙のとおり岡山市文化財保護審議会へ諮問するものとする。 提案理由としては、「多自枯鴨神社の大杉」を岡山市指定文化財から解除することについて、岡山市文化財保護条例第10条の2の規定により、岡山市文化財保護審議会に諮問するにあたり、教育委員会の議決を経ようとするものである。 対象となっております多自枯鴨神社の大杉とは、岡山市北区建部町田地子539、これが地番であるが、実際の場所は建部の中心である福渡から西へ2キロメートルの山中にある。建部町時代にも天然記念物として指定されていたが、合併後、平成22年7月22日に岡山市の天然記念物として再指定されたものである。そして、23ページが現在の状況であるが、枯死状況、つまり、枯れてしまいました、立ち枯れの状態になっているので、所有者から、文化財としての価値がないのであるということで解除申請が出された。それについて審議会のほうに解除をしてくださいと、どうでしょうかというような意見を教育委員会から申し上げるというような内容である。
教育長	では、ご審議をよろしくお願いします。
全委員 教育長	○ それでは、ご質問、ご意見があればお願いします。 議案どおり可決してよろしいか。
	○ 〈承認〉
	○ 議案は原案どおり可決する。 次に非公開の審議に移るので、関係者以外は退席をお願いします。

傍聴の状況		
報	道	0名
一	般	0名

平成31年4月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

1 開催日	平成31年4月23日（火）		
2 開会及び閉会	開 会	14時55分	
	閉 会	15時25分	
3 出席委員	教 育 長	菅 野 和 良	
	委 員	藤 原 佳 代 子	
	委 員	石 井 希 典	
	委 員	妹 尾 直 人	
	委 員	片 山 美 香	
4 会議出席者			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
教育次長	石 井 雅 裕	教育次長	岡 林 敏 隆
次長（教育総務部長兼務）	赤 野 政 治	学校教育部長	奥 橋 健 介
生涯学習部長	重 松 浩 二 郎	教育企画総務課長	小 林 芳 由
保健体育課長	力 竹 孝 典	保健体育課課長補佐	花 房 明 彦
保健体育課係長	片 山 智 久	事務局 （教育企画総務課課長補佐）	澤 谷 好 太 郎
事務局 （教育企画総務課主事）	友 次 紗 都 美		
5 議題及び結果			
報告第 25 号	専決処理の報告（市議会の議決を経るべき議案の原案への同意について）	承	認
報告第 26 号	専決処理の報告（学校教育活動中の事故に係る和解及び損害賠償の額を定めることについて）	承	認
報告第 27 号	専決処理の報告（私有自動車の破損に係る和解及び損害賠償の額を定めることについて）	承	認
報告第 28 号	専決処理の報告（岡山市教育委員会事務局職員の人事について）	承	認